

苫小牧工業高等専門学校		開講年度	令和03年度 (2021年度)		授業科目	国際コミュニケーション	
科目基礎情報							
科目番号	0004		科目区分		専門 / 必修		
授業形態	授業		単位の種別と単位数		学修単位: 2		
開設学科	創造工学科 (情報科学・工学系フロンティアコース)		対象学年		5		
開設期	後期		週時間数		2		
教科書/教材	What Do You Mean? -Exploring Communication Gaps-						
担当教員	石川 愛弓						
到達目標							
1. 異文化コミュニケーション分野の重要な概念に関する英文を正しく理解し、内容について深く考察することができる。 2. 異文化理解・多文化共生の観点から社会を見つめ直す視点を養い、「グローバルエンジニア」として必要とされる考え方や態度を身につける。							
ルーブリック							
	理想的な到達レベルの目安		標準的な到達レベルの目安		最低限の到達レベルの目安 (可)		未到達レベルの目安
評価項目1	英文の意味とその内容の本質を正しく理解し、論理的な考察を加えることができる。		英文の意味とその内容の本質をおおむね正しく理解し、論理的な考察を加えることができる。		英文の意味内容を理解し、助言があれば論理的な考察を加えることができる。		左記に満たない。
評価項目3	相手の意見を適切な態度で聞くことができ、与えられたテーマについて重要語句を正確に使いながら説明できる。		相手の意見を適切な態度で聞くことができ、与えられたテーマについて重要語句を使いながら説明できる。		相手の意見を適切な態度で聞くことができ、助言があれば与えられたテーマについて重要語句を使いながら説明できる。		左記に満たない。
学科の到達目標項目との関係							
Ⅰ 人間性 Ⅱ 実践性 Ⅲ 国際性							
教育方法等							
概要	「異文化コミュニケーション」をテーマにした英文を読み、異なる文化的背景をもつ相手とのやりとりにおける他者理解と、自己表現のための重要な概念を理解する。						
授業の進め方・方法	授業はテキストの読解・要約、音読、発表活動などを中心とする。プリントを多用するため、学期末まで保管と管理を徹底すること。 ※この科目は学修単位科目のため、事前・事後学習として課題・演習などを実施し、評価の対象とします。						
注意点	※ 課題提出において剽窃行為は一切認めない。剽窃と判断された場合は、すべての課題点を0とする。 ※ 議論の対象となる文化圏・文化事象に敬意を払い、決して差別的・侮蔑的な発言や記述をしないこと。						
授業の属性・履修上の区分							
☒ アクティブラーニング		☒ ICT 利用		☒ 遠隔授業対応		☐ 実務経験のある教員による授業	
授業計画							
		週	授業内容		週ごとの到達目標		
後期	3rdQ	1週	[Nonverbal Communication] Unit1 The Japanese Bow		日本人の「お辞儀」文化を客観的に捉え、意味や役割について考察する。		
		2週	Unit2 Smiles		「微笑み」が文化によって異なる意味を持つことを知り、表情と意味伝達の関係性について考察する。		
		3週	Unit3 Eye Contact		「視線」が文化によって異なる意味を持つことを知り、表情と意味伝達の関係性について考察する。		
		4週	Unit4 Touching Behavior		「接触」に対する考え方が文化によって異なることを知り、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		5週	Unit5 Hand Gestures		文化によって様々な「ジェスチャー」があることを知り、その意味や役割について考察する。		
		6週	Unit6 Body Movements		「体の動かし方」によって伝わる意味があることを理解し、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		7週	Unit7 Space		物理的な「距離」にも意味が生じることを理解し、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		8週	達成度試験				
	4thQ	9週	[Verbal Communication] Unit8 Same Words Different Meaning Unit9 Intonation		同じ言葉でも、場面や状況によってアクセントやイントネーションが大きく変わることを知り、適切な表現方法を身につける。		
		10週	Unit10 Succinct or Elaborate		情報伝達の際、文化によって「簡潔さ」「丁寧さ」など何を重視するかが異なることを理解し、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		11週	Unit11 Personal or Contextual		「個」を尊重する文化と「集団」を尊重する文化の性質の違いを理解し、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		12週	Unit12 Goal or Process Oriented		「結果重視」「プロセス重視」の文化的差異を理解し、起こりうる問題を発見してその解決策を提案する。		
		13週	Unit13 Sarcasm		「皮肉」が伝えるメッセージの性質を知り、意思伝達手段の一つとして理解する。		

		14週	Unit14 Politically Correct	人種や性に対する差別的な言葉を含む攻撃性や問題点を理解し、適切な言葉や態度を選択する考え方を身につける。
		15週	Unit15 Social Networking Service	SNSの利点・欠点を客観的に把握し、適切なコミュニケーションのための考え方や態度を身につける。
		16週	定期試験	

評価割合				
	定期試験	達成度試験	課題・小テスト等	合計
総合評価割合	40	35	25	100
基礎的能力	40	35	25	100
専門的能力	0	0	0	0
分野横断的能力	0	0	0	0